

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 26 年 11 月 20 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	水越 楓

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
北海道 釧路市
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
北海道沿岸に來遊するシャチの音響行動解析
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 26 年 10 月 9 日 ~ 平成 26 年 10 月 20 日 (12 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
Uni-HORP (代表: 東海大学 大泉宏)
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果: 長さ自由)
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
<p>今回の渡航は北海道釧路沖において実施されたシャチの生態調査に参加したものである。乗船予定日は 10/10~19 日の 10 日間であった。10 日間で、出航したのは 7 日間であった。台風や低気圧の影響で、半日出航の日もあった。</p> <p>主に観察された鯨種は、ザトウクジラ、カマイルカ、イシイルカ、ナガスクジラ、ネズミイルカであった。特にザトウクジラは今まで頻繁に観察される種ではなかったものの、今回の調査においては、ほぼ毎回確認することができた。</p> <p>最終日である 19 日にシャチを観察することができた。11 時前に発見し、15 時前まで観察したため、約四時間ほどであった。鳴音の録音もできたため、3 時間半程度のデータを取ることができた。観察中に、複数のコールを確認した。個体識別からも羅臼には訪れない釧路の個体群であるということがわかったため、時間は少ないものの貴重なデータを取ることができたと考えている。</p> <p>今年度の調査は、今回の釧路で終了であるが、六月の羅臼以外の調査ではシャチの発見率や天候に悩まされる結果となってしまった。地元の漁師や観光船の情報から、今後の調査時期について再考すべきと思われる。</p>

Photo 1 観察されたオスのシャチ
6. その他 (特記事項など)
調査の調整をしてくださった齋野さまをはじめとする Uni-HORP のみなさま、観光船はまなすの船長浜松貢さん、杉田知香さんに感謝申し上げます。